

モノと情報班 雲南県誌グループ

雲南省「県誌」を使った人口データベース作成

安達真平（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

キーワード：雲南、人口、データベース

Construction of Population Database using “County Gazetteer” of Yunnan Province

ADACHI Shimpei(Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)

Keywords: Yunnan, Population, Database

要旨：

本稿は、雲南省「県誌」を利用した生態史データベース構築の一環として行っている、人口データベース作成作業の中間報告である。本文の構成は、1) 中華人民共和国の人口統計全般についての紹介、2) データベースの作成方法とその進捗状況、3) データベースの問題点と意義、となっている。

結論として、「県誌」を利用した人口データベースには、データの出所の特定、データそのものの信頼性等の面で問題があるものの、雲南省という広域にわたって、県レベルというローカルな単位での人口動態、人口センサスデータ、民族別人口を把握できることがこのデータベースの最大の特徴であることが示された。これは、これまでの統計では知ることの出来なかったデータである。データベースの完成により、ローカルなレベルから地域の生態史を解き明かそうとする本プロジェクトの各研究に対して、必要に応じて人口の基礎データを提供することができるものとする。

1. はじめに

本稿では、雲南省「県誌」を使った人口データベース作成の概要とその意義を述べる。これは、生態史クロニクル雲南編でおこなわれている雲南省「県誌」を利用した生態史データベース構築の一環として行っているものである。

人口動態の理解が生態史を考える上で重要なことは言うまでもない。しかし、これまで中国における人口分析は、全国レベルあるいは省レベルでの分析が大多数であった。本プロジェクトでは、手法は現地調査であれ文献調査であれ、人と自然との関係についての細かな事象の検証を積み重ねることにより地域の生態史の全体像を明らかにしようとするものである。そのためには、よりローカルなレベルでの人口動態データが必要不可欠である。特に、山地がちで多くの少数民族が住む雲南省では、地域性や民族の多様性を反映した人口データベースの構築が求められる。

そこで、本プロジェクトで収集中の雲南省全県「県誌」に記載された人口資料を基に、雲南省人口データベースの作成を始めた。

本稿では、まず「県誌」に記載されている人口資料とはどのようなものであるのかを理解するために、そのソースである中華人民共和国（以下、中国）の人口調査、統計の種類とそれらの問題点を概観する。次に、人口データベース入力の具体的な作成方法とその進捗状況を報告する。最後に、この人口データベースの問題点と意義をまとめる。

2. 中国の人口統計

1) 中国における基本的人口統計の種類

人口統計は一般に、ある時点における人口の規模や構成を表す人口静態統計と人口集団の時間的地理的変動を表す人口動態統計とに分けられる。例えば、日本における代表的な人口静態統計は総務庁統計局の「国勢調査」のデータであり、一方人口動態統計は市区町村などでの出生、死亡届けおよび住民票の転入、転出の集計であり、それらをまとめたのが厚生省「人口動態統計」(出生、死亡)と総務庁統計局「人口移動統計」(移動)である。中国の主な人口統計には、以下のようなものがある。

人口静態統計

- ・ 国家統計局による人口センサス(中国語:人口普查)

日本の「国勢調査」に相当するものであり、中国ではこれまで1953年、1964年、1982年、1990年、2000年に実施されてきた。ただし、1953年と1964年は一部の地域では実施されていない。今後は、10年ごとに末尾が0の年に実施される予定である。調査日は、1982年以前は7月1日、1990年は10月1日、2000年は11月1日である。

- ・ 国家統計局による1%サンプル調査(中国語:全国1%人口抽样调查または人口小普查)

これまで、1987年、1995年、2005年に実施されてきた。人口センサス(人口普查)実施期間の空白を補充するために行われるもので、今後は末尾が5の年に行われる予定。

- ・ 国家統計局による人口変動サンプル調査(中国語:人口变动抽样调查)

各年度の人口変動状況を適時に把握するため、1982年以降毎年実施されている。調査は10月に行われ、サンプル世帯に対して、過去一年間の出生、死亡、移動、婚姻、就業、失業等の状況を調べる。サンプリング方法に関しては、1988年以前は全国を1つの総体としてサンプル数50万人、1989年以降は全国レベルの総体に加えて30の省レベルの行政単位を第二の総体としてサンプル数180万人を抽出して調査を行った【薛ら1998】。

人口動態統計

- ・ 公安部による戸籍登録に基づく年末人口

農村部、都市部の末端レベルの派出所における住民の戸籍登録を集計したもので、1949年以降、毎年発表されている。

2) 中国の出版物に見られる人口統計

中国で出版されている統計書では、これらの基礎統計をそのまま利用したり、修正したりした様々な人口統計が使われている。

そのなかで、人口静態統計については、一般的に国家統計局による人口センサス、1%サンプル調査の調査結果をまとめた統計が利用される。人口数値は年央人口であり、それぞれ国務院人口普查弁公室・国家統計局人口統計司編『中国1982年(あるいは、1990年、2000年)人口普查資料』中国統計出版社、国家統計局人口与就業統計司編『1995年全国1%人口抽样调查主要数据』中国統計出版社として出版されている。

一方、人口動態統計は、出版物によって、あるいは同一出版物でも年度によって異なる統計が用いられており非常に複雑である。以下では、薛進軍らの研究【薛ら1998】を参考に、中国の出版物に使われている人口動態統計をその利用されている統計の種類によって4系列にまとめた。

簡略化のため、出版物名は以下の数字で記す。

国家統計局編『中国統計年鑑』中国統計出版社

国家統計局人口与就業統計司編『中国人口統計年鑑』

国家統計局総合司編『全国各省、自治区、直轄市歴史統計資料匯編（1949 - 1989）』中国統計出版社
 中華人民共和国公安部編『中華人民共和国全国分県市人口統計資料』群衆出版社
 中国社会科学院人口研究所編『中国人口年鑑』經濟管理出版社
 国家統計局人口統計司、公安部三局合編『中華人民共和国人口統計資料匯編』

公安部系列の統計

上述した公安部戸籍統計で、年末の人口数値である。中の「歴年人口（人口動態統計）」、1986年以降毎年発行されている、に記載されている1949年から1985年の人口データは、基本的にはこの公安部の戸籍統計が基本となっている。また、中の「歴年人口」についても、薛進軍らの研究では、「統計概念の説明も注記もないが、それは公安部統計と同じと思われる」と述べられている。さらに、の「歴年人口」とについても、1981年以前のデータは公安部の戸籍統計数値が使われている。

複数の統計を用いた修正統計

国家統計局による人口調査は人口静態調査であるが、それを基に公安局の戸籍統計を利用して修正された人口統計が算出される場合がある。数値は普通、年末人口である。の「歴年人口」のうち、1982年から1989年の間の人口データは、1982年と1990年に行われた人口センサスの結果を基に、また1990年から2000年の間の人口データは2000年人口センサスの結果を基に、ともに公安局の統計を利用して算出されている。ただし、人口センサスの最終実施年以降の年における人口データ（例えば、1995年版における1990年から1994年、2003年版における2001、2002年）に関しては、人口変動サンプル調査の結果より算出されているようである。また、の1982年の値は人口センサスの値そのままであり、1983年は人口変動サンプル調査の結果より算出されている。

以上のように、中国の人口統計は公安局と国家統計局の2系列の統計があり、それらが単独で用いられることもあれば組み合わせられて修正統計として使われることもある。さらに複雑なことに、人口動態統計においては、そうした調査の範囲、方法、時期の異なる統計が同じ時系列上に並べて使われているのである。また、修正統計に関しては、その算出方法が説明されていないことが普通である。

このように複雑な中国の人口統計であるが、大雑把にまとめると次のように言うことができる。

人口静態統計については、人口センサス結果あるいは1%サンプル調査結果が用いられる。人口動態統計については、1981年以前の数値では公安部の戸籍統計をそのまま用いるのが普通である。これは、以下で詳しく述べるように、1982年の第三回センサス（人口普查）以前は人口センサスの実施回数が少なく、行われた2回（1953、1964年）のセンサスにも信頼性に問題があり、それを修正するための補足センサスも行われていなかったためであろう。1982年以降のデータは、公安部の戸籍統計そのままのものと、それを基に人口センサスの結果、あるいは人口変動サンプル調査の結果を利用して修正した統計の2種類が使われている。

3) 中国の人口統計の問題点

中国の人口統計には多くの問題点が指摘されているが、薛進軍らの研究【薛ら 1998】を参考にして、公安部戸籍統計および国家統計局人口センサスの主な問題点をまとめると以下ようになる。

戸籍統計の問題点

- ・ 過去に虚偽の報告が多発した。1960年前後の大躍進運動による大飢餓時期には、地方政府が人口の大規模な減少が明らかになる事を恐れ、故意に死亡数を過小に申告したといわれている（出生、死亡人数のデータと総人口の変化が合わない）。1962-63年の人口にも問題があり、大飢餓以後、地方政府は中央政府から多くの救済食料、綿布、補助金をもらうため、人口を多く申告したという。
- ・ 文化大革命の時期（1966 - 1976年）には、人口センサスが行われなかったため、戸籍統計しかなく、それを検証、訂正する方法がない。

- ・ 計画生育政策との関係で出生や死亡の未申告、偽申告が普遍的である。特にヤミ人口（中国語で黒孩子）は、公安部の戸籍統計からは抜けているが、人口センサスには含まれているといわれる。
- ・ 上級への報告において、下級レベルでの情性が働き、統計調査の正確さに注意が払われぬまま報告されることが多かった。
- ・ 一方で、従来戸籍管理は非常に厳しいものであったので、戸籍統計はかなり信頼できるという意見もある。

人口センサスの問題点

- ・ 1953年調査は、交通不便、条件不備、言語不通などのため一部の地域では行われていない。また、一部では、地方政府と少数民族幹部が間接方法で人口数値を推定したため、信頼性に乏しい。
- ・ 1953年人口センサスでは、男女別人口だけが調査され、年齢別人口、生年月日などの情報がない。
- ・ 1953年人口センサスの一部数字に問題があるため、1954年に追加調査が行われたが、その結果も、中国内務部、中国人民解放軍、中国財務部の公表した各数字（1950 - 1951年）より1億人も多い。
- ・ 1964年人口センサスは、当初は信頼性が高いと考えられていた。しかし、戸籍統計と同様、大飢餓後に地方政府は中央から補助金を獲得するために人数を過大報告した。そのため、一部で人口追加調査が行われ、その結果1962 - 1964年の人口数値を修正発表した。しかし、この修正発表にも問題があるとされている。
- ・ 1982年以降の人口センサスは、国連機関などの協力の下で行われ比較的信頼性が高いと考えられている。

3. 「県誌」を使った人口データベースの作成方法とその進捗状況

以上のような中国の人口統計の実状と問題点を踏まえたうえで、筆者は2005年12月より雲南省「県誌」の人口資料のデータベース化作業を始めた。ここでは、その作業の具体的な方法と、進捗状況を述べる。

雲南省「県誌」は生態史クロニクル作業グループによって収集されたもの〔田口 2004、宮脇 2004、兼重 2004〕を利用し、記載されている人口の数値データをエクセルファイルに入力した。最終的には雲南省内の全128県（県級の市、区を含む）の入力を行う予定であるが、近隣諸国との関係の深い国境沿いの県（省内全26県）のうちすでに収集された18県について優先的に入力作業を行い、次にそれら県の近隣県へと作業を進めた。現在までに23県の入力が済んでおり、年内には全国128県の入力を終える予定である。

入力項目は以下の通りである。

人口動態統計

幸いなことに、大部分の「県誌」には人口の歴史的変化を示した人口動態統計が記載されている。データベースには中華人民共和国成立（1949年）以降の県総人口を入力した。多くの「県誌」には、各年の男女別人口、農業人口と非農業人口が記載されている。将来的にはそれらも入力する予定であるが、現在のところは県総人口を優先して入力している。

統計のソースが明記されていることはほとんどないが、公安部の戸籍統計そのもの（年末人口）か、もしくは人口センサス結果を基に公安部統計を利用した修正統計（年末人口であることが多い）であることは、同じ「県誌」に記載された人口センサス数値との比較から推測できる。一部の「県誌」において、明らかに公安部系列の統計（年末人口）と人口センサスによる数値（年央人口）が混在していると分かるものがあつた。人口動態統計の入力に関しては、基本的には年末人口で統一する方針を取ったが、その年度の数値が人口センサス数値以外に記載がない場合には、空白になるのを避けるために注を付けて人口センサス数値（年央人口）を入力した。

さらに多くの「県誌」の人口動態統計には、県総人口以外にも各年度の出生率、死亡率（または出生者数、死亡者数）が併記されている。記載がない場合でも、連続した年度に渡って総人口のデータの記載がある場合は、そうした数値を求めることが可能である。データベースには、出生者数、死亡者数およびそれから導き出される自然増加数、社会増加数（利用可能なデータがあれば流入者数、流出者数）を可能な限り入力した。これにより、人口変動の原因をより詳しく知ることが可能である。

人口増加数 = 自然増加数 (出生者数 - 死亡者数) + 社会増加数 (流入者数 - 流出者数)

人口センサスデータ

人口センサスデータ中の県総人口 (男女別) を入力。多くの県誌の発行年は 1980 年代末から 90 年代にかけてである。そのため、発行時までに行われた人口センサスは 1953 年 (県によっては 1954 年)、1964 年、1982 年、1990 年 (発行の早かった「県誌」では記載なし) であるが、実際には多くの「県誌」で 1953 年のセンサスデータが記載されていない。これは、辺境であるために人口センサスが行われなかったか、あるいはデータの信頼性が著しく低いと判断されたためと考えられる。また一部の「県誌」では、1954 年、1958 年の人民代表大会のための選挙民の登記資料、1954 年の民族識別工作時の資料が記載されていることがあり、人口センサスに替わる、あるいは補足するデータとして入力した。1 県あたりのデータが存在する年度数は県によってばらつきがあり、2 から 5 点 (年) となった。そのなかで、1964 年と 1982 年センサスに関しては、入力の終わった 23 県すべてでデータが記載されていた。

民族別人口データ

各県の民族別人口データに関して、記載されているものをすべて入力した。「県誌」に記載されている民族別人口データの多くは人口センサスデータである。その他のデータは、ソースが明記されていることは少ないが、年次から考えて 1950 年代に行われた民族識別工作データか人民代表大会のための選挙民登記データと考えられるものが多い。現在までに入力を終えた 23 県において、入力された民族は 28 民族、データの存在する年度数は県によってばらつきがあるが、1 県あたり 1 から 8 点 (年)、平均しておよそ 3 点 (年) であった。

県の下位行政区である郷、鎮レベルの人口統計は、一部の「県誌」にしか記載がなく、また以下に詳しく述べるように、行政単位の名称、境界の変更に伴う問題があり、データの修正が必要と判断したため、入力作業を中断し、県レベルの人口データの入力を優先させることにした。

この報告書の執筆時点 (2006 年 4 月) での入力済みデータのなかから、主に公安部戸籍統計を基にした人口動態統計 (県総人口のみ) を一覧表にして示した【表 1】。その他のデータは紙面の都合上省略する。

4. 「県誌」を使った人口データベースの問題点と意義

最後に、「県誌」を使った人口データベースの問題点とその意義を整理し、その特徴を述べて、本稿のまとめとする。

1) 問題点

- データの年度が県誌によって異なる。毎年データのある県もあれば、間隔がかなり開いている県もある。特に、1990 年代以降の統計データの記載がないことは、「県誌」の発行年から考えればやむを得ない事ではあるが、このデータベースの大きな欠点である。

ただし、最近のデータの欠如を補う方法として、中華人民共和国公安部編『中華人民共和国全国分省市人口統計資料』を活用することが考えられる。この資料は、1986 年以降、毎年発行されているもので、その年度における各県ごとの人口データ (公安部戸籍統計による) が記載された貴重なものである。1986 年以降に関しては、この統計資料を参考に、人口動態統計の数値を追加することが可能である。ただし、近年は農村から都市への出稼ぎなど戸籍の移動を伴わない移動が急増しているが、戸籍統計のみではこの変化を把握することが出来ない点については注意が必要である。

- 人口センサス以外のデータに関しては、そのデータの出所がはっきり示されていないことが多い。出所が不明なデータの多くは、公安部戸籍統計そのもの、あるいは人口センサス結果と戸籍統計データによって修正したものと考えられるため、とりあえずは年末人口として扱っている。今のところは、統計の種類が特定できる別の資料が入手できるのを待つ他ない。
- 人口動態統計については、行政区画の変更 (県境の変更) による影響を考慮する必要があるが、その影響を

修正するための情報が少ない。行政区画の変遷は、「県誌」中の「行政区画」等の項目やその他の資料を読むことで把握できる場合が多いが、変更された区域の人口は分からないことが多い。実際、中華人民共和国成立初期の1950年代から1960年代にかけては、県境の変更や県の分割などが頻繁に行われたため、その影響は少なくない。

それと関連して、当初行う予定であった郷、鎮レベルでの人口データ入力は、「県誌」によってはデータそのものが記載されていないという問題に加えて、行政区画の境界や名称の変更が県レベルよりもさらに頻繁に起こっており、より詳しい資料が入手できるまではデータベース作成は困難であると考えた。

- ・ 県の民族別人口は、民族成分の変更（行政区画の変更にも）によって影響を受けるが、県レベルでの民族成分変更に関する詳細な資料はほとんどない。特に、中華人民共和国成立初期においては、民族成分の変更が頻繁に行われたため、その影響は非常に大きい。
- ・ 最も大きな問題点は、統計データ自体の信憑性の問題である。上述したように、特に大躍進（1958 - 1960年）から文化大革命期（1966 - 1976年）にかけては、戸籍統計、人口センサス共にデータの信憑性について少なからぬ疑いがあるため、利用に際しては注意が必要である。1982年以降の統計に対しては相対的に信憑性は高いと考えていいであろう。戸籍統計と人口センサス結果を組み合わせた修正データの場合は、特に信憑性が高い。しかし、上述したように、戸籍統計そのものなのか、人口センサス結果を加味した修正データなのかは、はっきりとは分からないものが多く、戸籍統計そのものである場合は、ヤミ人口などの統計上漏れる人口がある程度存在する可能性を考慮する必要がある。

2) 意義

- ・ データの出所、信憑性について問題はあるものの、中華人民共和国成立後の人口動態が県レベルで整理された資料としては、この人口データベースが唯一のものである。中国で発行された統計のなかでは、中華人民共和国公安部編『中華人民共和国全国分県市人口統計資料』が唯一県レベルでの人口の資料を提供してくれるが、現在のところ1986年以降のデータしか手に入らない。それ以前の人口動態資料は、省レベルのものしか入手できない。
- ・ 人口静態統計としての人口センサス結果は、1982年以降のものは比較的手に入りやすいが、それ以前の人口センサス（1953、1964年）結果は、中国では内部資料となっており、入手できない。「県誌」を利用した人口データベースでは、そうした初期の人口センサス結果に基づく県レベルの人口を知ることが出来る。また、上述したような問題点があるものの、人口センサス結果に基づいた民族別人口を県単位で知ることが出来るのもこの人口データベースの強みである。

3) まとめ

以上述べてきたように、雲南省という広域に渡って、県レベルというローカルな単位での人口動態、人口センサス、民族別人口に関するデータを提供できることが、この雲南省「県誌」を利用した人口データベースの最大の特徴である。統計のばらつきや信憑性等の問題はあるものの、現時点において入手可能な資料による雲南省の人口データベースとしては、最も全面的かつ詳細なものであり、これによって県ごとの人口の動態、規模、構造の特徴を数量的に概観することが可能である。

ローカルなレベルから生態史を解き明かそうとする本プロジェクトの各研究に対して、この人口データベースはそれぞれの必要に応じた基礎的データを提供できるものと考えている。

引用、参考資料

岡崎陽一 1993『人口分析ハンドブック』古今書院

兼重務 2004「『県誌』の『大事記』をもちいた雲南省生態史データベースの構築」『アジア・モンスーン地域における地域生態史の総合的研究 1945 - 2005 2004年度報告書』総合地球環境学研究所・研究プロジェ

クト4 - 2

薛進軍、前田比呂子、南亮進 1998「戦後中国の全人口統計：資料の吟味と時系列統計の推計の試み」一橋大学経済研究所アジア長期経済統計 Discussion papers http://ier.hit-u.ac.jp/COE/Japanese/discussionpapers/DP98.5/98_5.html

田口理恵 2004「生態史クロニクルに向けて」『アジア・モンスーン地域における地域生態史の総合的研究 1945 - 2005 2004年度報告書』総合地球環境学研究所・研究プロジェクト4 - 2

宮脇千絵 2004「生態史クロニクルにおける雲南省の「県誌」の利用について」『アジア・モンスーン地域における地域生態史の総合的研究 1945 - 2005 2004年度報告書』総合地球環境学研究所・研究プロジェクト4 - 2

Summary: This is a progress report on population database construction using “County Gazetteer” of Yunnan Province, aimed at providing more localized population data required for the eco-historical studies in our project. The report gives 1) general knowledge about population statistics in P. R. China, 2) method and progress status of the database construction, 3) limitation and significance of the database. It is concluded that although there are some problems in the identification of the data source and reliability of the data itself, the database can be able to provide valuable information such as the population change since 1949, population census results and population by ethnic group, all at the county level all over Yunnan Province.

表 1-1 県総人口の年次変化(1)

	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964
紅河州																
河口県				18224			20473					33927				37214
金平県	104188	106134	108484	110698	118049	124818	123838	129187	132534	136175	139503	139953	143055	148388	151271	
緑春県							64420	67567		71372				77925	84858	88364
紅河県	97677	99366	101290	103389	106956	109862	112222	115671	122829	124807	122146	118127	120253	124564	128784	
元陽県	88600	102333	130099	157864	158833	159125	164877	167883	172576	170873	175619	168308	165505	169871	174258	188895
屏辺県	67572	68951	61417	61808	63450	64561	65636	66108	66228	66565	65702	69486	73432	76447	79229	
建水県	236946				249372				267634		260111	253779	255416		270319	
文山州																
麻栗坡県				102921					112963	117799	122249	122678	125061	129744		
馬関県			152662	155133	157875	160871	163756	168257	170035	171737	172467	174982	173929	177509	183183	
西双版纳州																
● 腊県	44743	45286	46220	46955	47672	48528	49742	51218	52777	45628	48627	55448	57485	61168	64359	67644
景洪市				83514	84811	87527	91409	95697	105183	113844	129228	129726	132821	141646	150042	
● 海県	88021	90093	102214	94384	96667	98886	103427	105705	120937	119417	124948	126378	134028	146330	150986	153286
思茅地区																
江城県	27747	28194	28715	30975	30975	30974	31561	31886	34477	34485	35085	37017	40346	40995	41100	44832
孟連県						43724	44616	45926	47062	37574	37183	38044	37763	40389	43702	47462
瀾滄県	192630	194106	199475	205975	210253	216358	222607	239017	235717	236190	226872	229047	234767	244533	256496	
臨滄地区																
滄源県	56630	57612	58644	59715	60873	62085	63478	65034	67494	58226	67659	67422	73350	76878	78480	83030
耿馬県	67750	68954	70249	71539	72845	74518	76234	78730	80607	83482	82297	89594	91440	94691	98869	103939
保山地区																
騰衝県	264020	270357	276846	283214	284947	286101	291802	293853	296311	303017	304712	303347	314270	322275	327638	334182
徳宏州																
潞西県				88529	109718	122561	123345	126784	133875	129587	119476	121188	138821	141532	148056	152763
盈江県	102973	104247	105431	107297	109055	111429	112688	116916	97385	99528	103277	104146	111345	116575	123153	
瑞麗県		28751								18618	23520					36813
怒江州																
瀘水県	31583	32227	32884	33520	34937	36500	36962	37160	40055	40129	41094	42883	45300	44389	46023	48502
迪慶州																
徳欽県					28846							21344				38288

* 県名中の●は孟の右に力という漢字

* 河口県(1982、1990年)、瑞麗県(1964年)、徳欽県(1964、1982、1990年)は人口センサスデータ(年末人口)、その他は公安部戸籍統計あるいは人口センサスを基に公安部戸籍統計を利用して修正した数値(年末人口)

表 1-2 県総人口の年次変化(2)

	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
紅河州																
河口県	39745					53193					67935					73893
金平県	156610	162494	162957	169874	175556	183894	190433	194505	201066	206932	213352	219854	226545	232559	237535	241673
緑春県	101912	103007	101767		110316	113491	116474	120176	124829	128918	132854	137032	148784	144920	154948	157190
紅河県	133502	138041	143197	147855	151280	153280	161183	164611	169688	174530	179714	184619	190053	195711	200449	202310
元陽県	191558	198582	200409	211950	219560	225561	232929	237632	245318	251816	259725	267502	274654	282313	285522	292890
屏辺県	84563	84158	86989	89255	91800	96426	97586	97808	100506	102238	103426	108322	111159	114726	122419	124655
建水県	284604	294325			321279				352546		368181		383556			
文山州																
麻栗坡県		150264	155366									203578	209511	216772		
馬関県	188922	195842	201840	208996	214991	221793	229938	234963	241907	247657	253642	260458	267960	275416	281193	288346
西双版纳州																
● 腊県	82740	83348	87293	93456	100263	106448	130434	129100	131769	128122	131387	134259	138654	142833	125570	129415
景洪市	161472	171217	179113	187570	193973	209907	226090	240941	248336	252514	257467	264131	270496	274252	258272	265493
● 海県	158688	165298	169867	162706	181224	186745	189195	193880	201056	205556	209358	213506	217939	221266	223271	227606
思茅地区																
江城県	45388	52504	54125	54222	59043	60200	58106	60339	62725	64516	66234	68044	69654	70828	73498	76028
孟連県	50370	53713	54195	53919	50520	49145	51404	55182	58468	63008	63987	65912	69136	71818	73684	76413
瀾滄県	265581	274687	280215	288566	302866	308420	310700	315136	323851	332576	342208	350398	362787	371219	374967	380785
臨滄地区																
滄源県	87361	90575	89319	88964	91633	94382	95018	97878	100359	103945	108945	113672	114061	117061	116948	118943
耿馬県	108012	111983	121467	128183	132028	135988	142687	147477	149268	155688	158180	161669	165877	170539	171345	175277
保山地区																
騰衝県	342429	349874	356769	366134	377300	383653	393334	401915	412082	420568	427974	435566	444080	450912	455148	461476
徳宏州																
潞西県	157216	162555	168003	173152	178192	182631	189040	191863	197604	202619	205841	211405	215661	224273	228251	233850
盈江県	127159	131277	133144	135823	143524	146975	147870	150909	155223	163629	167738	167884	171525	175045	177349	181123
瑞麗県				45454										62133	61333	63202
怒江州																
瀘水県	50373	51181	52471	54372	54925	56265	57939	60096	63267	69176	69764	72443	73813	88113	89688	92669
迪慶州																
徳欽県																

* 県名中の●は孟の右に力という漢字

* 河口県(1982、1990年)、瑞麗県(1964年)、徳欽県(1964、1982、1990年)は人口センサスデータ(年央人口)、その他は公安部戸籍統計あるいは人口センサスを

基に公安部戸籍統計を利用して修正した数値(年末人口)

表 1-3 県総人口の年次変化(3)

	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
紅河州																
河口県		67021			67509					73559						
金平県	247395	254800	260874	264631	268858	274187	278697	284031	290030	294614						
緑春県	152937	156199	158274	160379	163146											
紅河県	206173	210633	213427	216678	219792											
元陽県	297069	304318	306012	309760	313417											
屏辺県	125142	125701	127202	128100	129240	130802	133069	135031	137843							
建水県	405802		418159		422293		431537									
文山州																
麻栗坡県	228025				239753			247871		252753	253653	254246	255396	256674	258201	259569
馬関県	294758	302612	303386	306929	311089	316127	321643	331951	335696	337220						
西双版纳州																
● 勐海県	132676	137265	136932	145396	148955	152277	156250	158283	166436	178850						
景洪市	268836	276269	277058	286472	292434	298774	304400	310197	324882	335761	325962	333146	339348			
● 勐臘県	232191	237076	241520	245299	250073	254883	259618	263495	268257	273210						
思茅地区																
江城県	77178	77226	77574	78883	80780											
孟連県	78689	81150	83345	85599	87533	90050	92133	94235	95724	97357						
瀾滄県	387655	396422	404344	412127	417837	424682	430944	436877	441682	447879						
臨滄地区																
滄源県	122364	124207	127231	130992	133265	135954	138281	140935	143678	148994						
耿馬県	180173	184643	188281	192771	197046	201180	204947	208684	215809	219538						
保山地区																
騰衝県	467150	475235	481361	489150	495181											
徳宏州																
潞西県	238735	244411	249245	254411	261120	267742	274480	281503	287255	292183						
盈江県	185328	191437	195855	200123	204839	209914	214751	220406	227157	233827						
瑞麗県	63899	66192	67843	69881	71481	73549	75503	77711	80059	81639						
怒江州																
瀘水県	93909	97343	100214	102931	105244	106165										
迪慶州																
徳欽県		52757								56644						

* 県名中の●は孟の右に力という漢字

* 河口県(1982、1990年)、瑞麗県(1964年)、徳欽県(1964、1982、1990年)は人口センサスデータ(年末人口)、その他は公安部戸籍統計あるいは人口センサスを基に公安部戸籍統計を利用して修正した数値(年末人口)